



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会議：国際海事機関（IMO）貨物運送（CCC）小委員会
編集・技術グループ第29回会合（E&T 29）

開催場所：国際海事機関（IMO）、英国、ロンドン

会議期間：2018年4月16日～20日

参加国：国：26、国際機関：5

海技研からの出席者：

太田 進：国際連携センター長

概要：貨物運送（CCC）小委員会編集・技術（E&T）グループは、国際海上固体ばら積み貨物コード（International Maritime Solid Bulk Cargoes (IMSBC) Code）の改正案を作成した。

主な貢献

太田は、昨年9月の第4回CCC小委員会（CCC 4）において固体ばら積み貨物に係るWGの議長を務めており、IMSBCコードに関する国際的なエキスパートとして、各種貨物の個別スケジュール（貨物毎に適用される規則）や新試験法等の改正案の策定に貢献した。



海上技術安全研究所 太田

主な審議結果

E&Tグループは、毎年春と、例年9月に開催されるCCC小委員会の翌週に開催され、奇数年は国際海上危険物規程（IMDGコード）、偶数年はIMSBCコードについて審議する会合である。今次会合には、我が国からは太田に加え（一社）日本海事検定協会 野々村一彦氏が出席した。

1 貨物の性状に関する表の改正

IMSBCコードの個別スケジュールには、貨物の性状を示すための表がある。この表の書式を改正し、ばら積み時のみ化学的危険性を有する貨物（MHB。国内法では固体化学物質）については、その危険性の種類を示す略称（notational reference）の案をまとめた。新旧の表の書式は次の通り。



旧形式			新形式			
静止角	見掛け密度	載貨係数	物理的性状			
粒径	クラス*1	種別	粒径	静止角	見掛け密度	載貨係数
旧形式（副次危険性がある危険物用）			化学的性状			
静止角	見掛け密度	載貨係数	クラス*1	副次危険性*2	MHB notational reference*3	種別*4
粒径	クラス*1	副次危険性*2	種別*4			

*1 危険物の主危険性

*2 危険物の副次危険性

*3 ばら積み時の化学的危険性

*4 種別 A&B：液状化の恐れがあり、且つ化学的危険性がある貨物
 A：液状化の恐れがある貨物（化学的危険性は無い）
 B：化学的危険性がある貨物（液状化の恐れは無い）
 C：液状化の恐れも化学的危険性も無い貨物

2 IMSBC コードの新規個別スケジュール等

今次会合においては、以下の貨物の個別スケジュール案に合意した。

- 細かなボーキサイト（BAUXITE FINES。液状化の恐れのあるボーキサイト）
- 自己発熱性を有する硫化金属精鉱 国連番号 3190
- 水滑石（ブルーサイト）
- フェロニッケルスラグ（粒状）
- シードケーキ及び油分の多い植物を処理した残渣（MHB）
- シードケーキ及び油分の多い植物を処理した残渣（種別 C）

さらに液状化の恐れのあるボーキサイトの運送許容水分値を決定するための新試験法の案を仕上げた。

3 改正案統合版の編集

IMSBC コードは、2008 年 12 月に採択され、2011 年 1 月 1 日に発効してから、これまでに 4 回部分的改正がなされている。次回改正では、コードの全文を差し替える予定であり、そのための統合版の案を作成した。

4 次回会合

次回会合（E&T 30）はロンドンの IMO 本部において、2018 年 9 月 14 日から 18 日に開催される第 5 回貨物運送小委員会（CCC 5）の翌週、2018 年 9 月 21 日から 25 日に開催される予定である。